

## 1. インターバンク市場

9/28~10/2の無担保コールO/Nレートは、半期末越えを挟んだことで、変動の大きい週となった。アマウントの大きい取引でレートが高くなる展開には変化無く、30日を除いて、大手行・地銀・信託・系統・証券の調達で、いずれも0.075~0.078%での出合いが中心となっていた。期末初取引にあたる、28日のS/N、29日のT/Nはいずれも0.001%の出合いがまとまった規模で見られ、30日のO/Nは0.001~0.003%が出合いの中心となるなど、大幅にレートが低下した。無担保コールO/N加重平均レートは30日が0.01%、それ以外の日は0.07%台後半となっていた。期末のレート低下要因としては、期末要因で調達を控える先が多くなる動きに加え、短国・レボ市場のレート低下が起こり、付利金利の非適用先からの資金がコール市場に流入したためと見られる。ターム物では、証券業態から2W~1M、信託やその他業態から1~2W、大手行からは1Wの調達が見られ、いずれも期明けのスタートであった。固定金利方式の共通担保資金供給オペは1日に3M・8,000億円がオファーされ、応札額1500億円(期落ち分1,800億円)と札割れとなった。なお、30日時点での当座預金残高は242兆2,400億円、マネタリーベースは338兆4,400億円であった。

10/5~9のインターバンク市場は、財政要因としては5日のTB3M発行超過、10Y発行が挙げられる。無担保コールO/Nレートは引き続き0.07%台後半が中心になると見られる。主要なイベントとしては、6~7日に開催される金融政策決定会合、8日の英中銀MPC結果発表が挙げられる。

## 2. オープン市場

9/24~10/2の短国市場は、期末にかけての担保需要から需給が逼迫しており、品薄感の強い閑散な地合いとなった。24日には3M物の入札が実施された。WI取引で▲0.04~▲0.03%と強めの出合いがみられたことから、結果は按分落札利回▲0.016%、平均落札利回▲0.0348%と、両利回りいずれも過去最低金利を更新する過熱感のある決着となった。セカンダリーは▲0.04~▲0.027%で推移。25日には、短国買入オペが6,000億円で実施され、按分利回較差±0%、平均利回較差+0.002%と堅調なマーケットを反映した落着いた結果となった。期明けとなる1日には3M物の入札が3,500億円減額の4兆7,500億円で実施され、入札結果は、按分落札利回▲0.011%、平均落札利回▲0.0188%となった。前回からマイナス幅が縮小したものの、年末越えの担保としてのニーズが強いことや、海外勢の買いを見越した買いもあってか、引き続き堅調な結果であった。セカンダリーでは、▲0.03~▲0.02%での出合いがみられた。短国買入オペは2日に10,000億円でオファーされ、按分利回較差+0.005% 平均落札利回較差+0.007%と、特定の銘柄を中心に落札されたと見られる結果となった。

9/28~10/2のCP市場は週間償還総額23,000億円程度に対し、発行総額は13,000億円程度にとどまった。中間期末となり有利子負債を削減する動きが見られたことで、発行案件が積みあがらず、9月末の市場推定残高は147,000億円程度と前月に比べて12,000億円程の減少となった。発行レートは、a-1格相当で0.05~0.07%、a-1格相当で0.07~0.08%台となり、投資家やディーラーの在庫確保の動きの強まりや25日のオペの影響から低下基調となった。25日のCP等買入オペは、発行残高が減少する中、目標残高を確保するためか、オファー額が5,500億円に増加された。市場の在庫が少ないことを反映して、応札額は6,990億円と少なく、平均落札利回は過去最低となる0.051%、按分落札利回も昨年6月の実質未達であった回に準ずる0.013%となり、前回(按分0.058%、平均0.075%)から大幅に低下する結果となった。

10/5~9の短国市場は、6日に6M物、8日に3M物の入札が実施される。マーケットは引き続き堅調な地合いが続くと予想される。CP市場はCP等買入オペが6日に1,500億円減額の4,000億円で実施予定となっている。当面のレート水準感を反映すると考えられ、結果が目目される。

## 3. 資金需給および国債等

銀行券は週間で700億円程度の発行超見通し。財政等要因は、5日のTB3M発行超過、10Y発行等があり、3兆1,700億円程度の揚げ超見通し。以上により、今週の資金需給(日銀調節を除く)は週間で3兆2,400億円程度の資金不足を予想する。国債・借入金(日銀償還は除く)の動きは次の通り。<5日>TB3M;償還40,100億円・発行48,000億円/10Y;発行24,000億円<8日>流動性供給;発行3,000億円

2015年	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ	期日	新規実行	オペ合計	実質過不足
10/5(月)	1,300	△ 32,700	△ 31,400	共通担保(面) CP買入	△ 1,800 △ 400	1,500	△ 700	△ 32,100
10/6(火)	1,000	2,000	3,000	短国買入 長国買入		10,000 4,700	14,700	17,700
10/7(水)	0	1,000	1,000				0	1,000
10/8(木)	△ 1,000	△ 3,000	△ 4,000				0	△ 4,000
10/9(金)	△ 2,000	1,000	△ 1,000	共通担保(面) CP買入	△ 700	4,000	3,300	2,300
週間合計	△ 700	△ 31,700	△ 32,400		△ 2,900	20,200	17,300	△ 15,100

(注) 上表の10/5は日銀予想、10/6以降は当社予想。

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
10/5(月)			9月のISM 非製造業景況指数 9月のFRB 労働市場情勢指数
10/6(火)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)	TB6M 35,000億円 10/13発行	8月の米貿易収支 IMF世界経済見通し発表
10/7(水)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 9月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 8月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)		8月の米消費者信用残高
10/8(木)	8月の機械受注統計(内閣府 8:50) 8月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の景気ウォッチャー調査(内閣府 14:00) 金融経済月報(日銀 14:00)	TB3M 48,000億円 10/13発行	英中銀MPC結果発表
10/9(金)	8月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB2M 25,000億円 発行中止	8月の米卸売売上高

本資料の内容は、十分信頼し得る情報・データ等に基づいて作成しておりますが、内容の正確性については弊社がこれを保証するものではありません。掲載内容のタイトル・日時・地域等につきましては、お取引先様各位にて別途ご確認いただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。

金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。